

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会
第 41 号
2014 (平成26) 年7月19日 (土)

論 語 塾

札幌市立発寒東小学校 6年 藤 嶋 梨 乃

私は論語塾に通って、初めて論語を知りました。初めは意味もわからずに、ただ新田先生の真似をして素読をしていました。けれど今は、新田先生の説明を聞いて意味を理解しながら、素読をすることができるようになりました。次からは、新田先生の説明を聞く前に、自分でどういうことかなどを考えてから、論語を学びたいと思います。

私の好きな章句は、「子曰わく、徳は孤ならず、必ず隣有り」です。この章句の意味は、仁の心を身につけている人は、一人ぼっちにはならない。必ず理解し、寄り添ってくれる人が現れる。ということです。私が、この章句を選んだ理由は、この章句のような人間になりたかったからです。

今、私はバスケットを習っていますが、バスケットの時はみんなで協力をして、プレーをしなければなりません。自分勝手な行動をすると、みんながばらばらになって、ひとつのプレーが出来なくなってしまうので、この章句のように、仁の心を持った人になって、練習の時から協力し、チームがひとつになることを目指して頑張りたいです。

これからは少しでも仁の心を持って、一人でも多くの友達と論語もバスケットも楽しく学びたいと思います。

※ 来月(8月)は、阿閉 由佳さんをお願いします。

こんなん であ ふこう
困難に出会うのは不幸ではない
じぶん の こうき
自分を伸ばす好機である

てらこや ろんごじゅく しゅさい につた おさむ
寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

げんだい にほん わかもの こどもたち た にがて こんなん きょくりよくさ い
現代の日本の若者・子供達は、耐えることが苦手で、困難なことは極力避けようと言われている
す。多くの者はまだ健全で頼もしい限りなのですが、そういう傾向にあるのも確かでしょう。

よどんだ疲労感やうつ感情を全身で示す者、困難なことを先送りして勝手気ままに過ごす者が全体として
ふ ぞく
増えていることが気になります。

べんきょう しゅうしょく めんどう こうそく じゆう とうざ
勉強はカッターイ、就職は面倒だ。フリーターがいい。拘束されるのはいや、自由がいい。当座だけ
面白ければ良い。責任ある仕事は嫌だし、人とのトラブルはごめんだ。こうして社会性や協調性のない若者
おもしろ よ せきにん しごと いや ひと しゃかいせい きょうちょうせい わかもの
が貴重な青春時代を浪費してしまう。

こども おとな かにい いろいろ こんなん けいけん とうぜん せいちょう けいき ひやく
子供が大人になる過程で色々な困難を経験するのは当然で、それが成長への契機となり、飛躍のステッ
プともなるのです。自分だけが困難な目にあっていたり、不幸であるなどとは決して思わないでほ
しいのです。

こんなん しつぱい さい
困難なことにつまづいても、失敗してもいいのです。それよりも、それを避けたり逃げ腰になった時、か
えって困難はより大きくなって目前に迫ってくることを知るべきです。

じゅくせい みな せんげつまな ちゅうよう とく ひと きょくたん かたよ ちょうわ せいじつ ひと せいちょう
塾生の皆さんには、先月学んだ中庸の徳たる人(極端に偏らない調和のとれた誠実な人)に成長して
いってほしいと願っています。